

(参考様式 6)

農山漁村活性化プロジェクト支援交付金
事業活用活性化計画目標評価報告書

平成 29 年 9 月 15 日作成

活性化計画名	美旗地区活性化計画			
計画主体名	計画主体コード	計画番号	計画期間	実施期間
名張市	242080	1	平成 24 年度～ 平成 28 年度	平成 24 年度～ 平成 28 年度
活性化計画の区域				
美旗活性化計画は、名張市北部に位置する美旗地域の 1,030ha を計画区域としている。 農道の整備や運動広場等を整備することで、耕作放棄地や荒廃地を農地に戻し、都市住民との交流拠点として利活用を計り当該地域の活性化に資する。				

1 事業活用活性化計画目標の達成状況

事業活用活性化計画目標	目標値 A	実績値 B	達成率 (%) B / A	備 考
交流人口の増加	増加率 53%	増加率 55%	104	
定住等の促進に資する 遊休地の解消	1.0ha	1.0ha	100	
農山漁村景観を活かした 取り組みの増加	71 回	74 回	104	

(コメント)

計画作成時における目標値を 100%達成できた。

本計画は、計画期間の 5 年での達成目標としていたが、今後も活動を増やし、農家と都市住民及び市内の非農家との交流を増加させ、当該地域の活性化を図っていき、名張市全体の活性化に寄与していきたい。

(記入例) 交流人口の増加の場合

目標値 A = (目標値 / 現状値) × 100 - 100、実績値 B = (実績値 / 現状値) × 100 - 100

2 目標の達成のために実施した各事業の内容と効果

事業メニュー名	事業内容及び事業量		事業実施主体
小規模農林地等 保全整備	①農道新設 L=300m W=4.0m ②農道新設 L=354m W=4.0m ③農道新設 L=357m W=3.0m ④農地保全整備 A = 10,000 m ²		名張市
管理主体	事業着工年度	事業竣工年度	供用開始日
名張市	①平成 27 年度 ②平成 24 年度 ③平成 25 年度 ④平成 25 年度	①平成 28 年度 ②平成 26 年度 ③平成 25 年度 ④平成 25 年度	①平成 28 年 5 月 14 日 ②平成 26 年 12 月 16 日 ③平成 26 年 3 月 26 日 ④平成 26 年 3 月 26 日
事業の効果			
農業用道路整備の完了により、遊休農地の解消、農作業の効率化、荷傷みなどの防止、施設維持管理の省力化が図られ、安定的な農業経営の確保に寄与している。			

事業メニュー名	事業内容及び事業量			事業実施主体
農業用道路	農道新設　L=200m　W=4.0m			名張市
管理主体	事業着工年度	事業竣工年度	供用開始日	
名張市	平成 28 年度	平成 28 年度	平成 29 年 3 月 29 日	
事業の効果				
農業用道路整備の完了により、遊休農地の解消、農作業の効率化、荷傷みなどの防止、施設維持管理の省力化が図られ、安定的な農業経営の確保に寄与している。				

事業メニュー名	事業内容及び事業量			事業実施主体
農林漁業 体験施設	休憩施設 A = 960 m ²			名張市
管理主体	事業着工年度	事業竣工年度	供用開始日	
名張市	平成 28 年度	平成 28 年度	平成 29 年 3 月 18 日	
事業の効果				
休憩施設を整備することで、農地保全整備として整備した農園で作業を行った作業員等の休憩スペースとして利活用を行い、効率的な作業を行っている。				

事業メニュー名	事業内容及び事業量			事業実施主体
景観・生態系 保全整備	①運動広場 A = 5, 000 m ² ②自然環境・生態系保全施設			名張市
	管理主体	事業着工年度	事業竣工年度	
名張市	①平成 25 年度	①平成 27 年度	①平成 28 年 4 月 1 日	
	②平成 29 年度	②平成 29 年度	②平成 29 年 3 月 18 日	
事業の効果				
当該施設で朝市が行われるなど、都市住民や市内非農家と農家との交流拠点として活用され、軽スポーツの催しも定期的に開催されている。また、非農家の住民や市外の住民が、散策や子供との運動を目的として訪れ、交流人口が増加している。				

3 総合評価

(コメント) 農道整備を行った新田地区は、街道に沿った家の裏側に間口の幅から放射状に 500 メートルの「ぜり田」が広がっている美田地帯であるが、大型機械が通れる農道がなく、耕作放棄地となっても隣の農家しか耕作できない等のほ場条件であったが、今回の農道整備で、ほ場への進入路が確保できたことから、遊休農地及びの耕作放棄地が解消された。 また、整備した農園は単に都市住民と農家との交流の場（体験農場）としてだけでなく、名張市障害者アグリ雇用推進協議会と連携し、整備を行った農園を就労訓練の場として、野菜等の植え付けや収穫体験等の活用を図っている。 運動広場においては、地域組織がスポーツ大会などを積極的に企画開催し、この地域の活性化に寄与している。

4 第三者の意見

(コメント)

近年、農地転用や耕作放棄地が増えている中で、農道が整備されたことにより放棄地を解消できたことは、名張市の農業としても非常に良かった。

今後も、整備された農園・運動広場を利用して、農業の活性化及び地域の活性化に寄与して頂きたい。

名張市農業委員会 会長 山崎 祥生

【 記入要領 】

- (1) 計画主体コード、計画番号は年度別事業実施計画に記入した番号とすること。
 - (2) 「1 事業活用活性化計画目標の達成状況」のコメントには、目標が未達成となった場合は、その理由を記入すること。また、達成状況が低調である場合は、実施要領別紙5第8の2の(1)及び(2)に基づき改善計画を作成し、農林水産大臣に提出すること。
 - (3) 「2 目標の達成のために実施した各事業の内容と効果」は事業メニュー毎に作成すること。また、「事業の効果」には事業の実施により発現した効果(農山漁村の活性化に関連する効果)を幅広く記入すること。
 - (4) 第三者とは「当事者以外の者」「その事柄に直接関係していない人」であり、計画主体、事業実施主体、管理主体のいずれの組織にも属さない者で事業地区を熟知している者。
公務員は対象外とし、事業評価委員会等の組織を有する場合は積極的に活用すること。
- ※ 達成率等算出根拠(参考様式6添付資料)を必ず添付すること。